

小垣谷遺跡調査成果の概要

- 1 遺跡名 小垣谷遺跡（こがきだにいせき）
- 2 遺跡の種別 集落遺跡
- 3 遺跡の時代 古墳時代～飛鳥時代、奈良時代～平安時代
- 4 所在地 豊岡市日高町祢布（にょう）
- 5 調査面積 約2,300㎡
- 6 調査期間 7月3日～10月20日（予定）
- 7 調査原因 一般国道483号北近畿豊岡自動車道日高豊岡南道路事業
- 8 調査主体 兵庫県教育委員会
- 9 調査機関 （公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
山田清朝副課長、別府洋二副課長、藤原怜史技術職員、森田昇太郎臨時的専門職員

10 調査の概要

（1）遺跡の立地

小垣谷遺跡は、現在の祢布集落より奥の、幅が30mほどの狭小な谷中の傾斜地にある遺跡で、一般的に集落としての適地とは思われない場所に立地している。

（2）遺跡の概要

【奈良時代後半～平安時代中期（8世紀後半～11世紀）】

- ・小垣谷遺跡の中心的な時代である。
- ・主な遺構は、掘立柱建物・溝・土坑などである。
- ・遺跡の北側にある尾根の裾に沿うように排水のための溝（杭で護岸）が掘られ、その南側から建物跡等が見つかっている。
- ・溝を中心に多量の遺物が出土している。
- ・遺物には、土師器（杯・椀・甕・埴・鉢・甑・移動式竈など）、須恵器（杯・杯蓋・甕・壺など）、緑釉陶器（皿）がある。

【古墳時代後期～飛鳥時代（6世紀後半～7世紀）】

- ・飛鳥時代の土坑が見つかっている。
- ・遺物として、須恵器（杯・杯蓋・高坏など）が少量出土している。

11 ま と め

（1）奈良時代後半～平安時代中期を中心とした時期に、それまであまり利用されなかった狭小な谷中の傾斜地に集落が営まれていたことが分かった。役所や寺などといった特別な性格を示唆する遺構・遺物は見つかっていないため、一般的な集落であったと思われる。

（2）この立地状況が当地域や時期の特徴か否かについては調査例が少ないため断定できないが、当遺跡の南約1kmに第2次但馬国府が設置された延暦23（804）年に近い時期であることが注目される。

（3）現在調査中であり、今までのところ180個以上の遺構と収納箱約55箱の遺物を発見している。

（4）主な遺構と遺物

時代	遺構	遺物
古墳時代後期～飛鳥時代 （6世紀後半～7世紀）	土坑	須恵器
奈良時代後半～平安時代中期 （8世紀後半～11世紀）	掘立柱建物・溝・土坑など	土師器・須恵器・緑釉陶器

小垣谷遺跡 提供写真



写真1 掘立柱建物（奈良時代か）



写真3 遺構の検出状況（飛鳥時代）



写真2 護岸用の杭を打った溝（奈良時代～平安時代）



写真4 土器の出土状況（奈良時代）



小垣谷遺跡 現地説明会 会場